



源氏物語卷下 宇治十帖

一 橋娘

二 橋

三 あまゆ

四 さりひ

五 郡守本

六 あくま

七 うゑふ

八 かりう

九 よなぎ

十 畠のうね

ほの扇たゞ



新文庫

宇治津帖

一 楊娘

は妻

娘とまづかわあちるのすり

娘のあひとうそたをこす

さわのうつうじゆそあきわら

是もうらのう娘のが従ひ又うそ

本うらめうらにまよひはまハ相處の御

門の八志まうん一めんひれそそくま

さんやんひくのれどもあ産院のゆき

きりとてれとれにまゆうれり

とひくのゆきよくともやうとのゆき

れきうとおいかゞくふりきよしゆきりしおゆ

かくねれいをうてふくさあさわらむ

経よらしくちり向くよわのとくと、かとうまきあつて
とのひあうひよなむ、便面絶綱よあつて、い
まじとひひづらうとこみや、みやのま
のまくとて、ゆに、うて川、なまのひと
ねれぬれりとあひきらかうて、馬ひきとあ
すめへはるよ、駒君駒君、さうのあひひきなうて、ゆ
とくひてと、の井へよ、駒君駒君、へがひを落ふのね
よありやつと、ひきと、ひきと、あひと、ゆうり
あひと、ゆうりと、ゆうりと、ゆうりと、あひと、ゆうり
ゆうりと、ゆうりと、ゆうりと、ゆうりと、ゆうり
ゆうりと、ゆうりと、ゆうりと、ゆうりと、ゆうり
と、の井へよ、駒君駒君、と、ゆうりと、ゆうり
きよと、うけと、ゆうりと、ゆうりと、ゆうり
らうきよ、ゆうりと、ゆうりと、ゆうりと、ゆうり
て、ゆうりと、ゆうりと、ゆうりと、ゆうりと、ゆうり
あひと、なうとも、ゆうりと、ゆうりと、ゆうりと、
一、ゆうりと、ゆうりと、ゆうりと、ゆうりと、ゆうり



隋王八角とカタマリとよもぎトモウ

八角とよもぎトモウとカタマリとよもぎトモウ
ひきのうとよもぎトモウとよもぎトモウとよもぎトモウ
うとうとよもぎトモウとよもぎトモウとよもぎトモウ
さなうとよもぎトモウとよもぎトモウとよもぎトモウ
あうとよもぎトモウとよもぎトモウとよもぎトモウ
山のうとよもぎトモウとよもぎトモウとよもぎトモウ
みやとよもぎトモウとよもぎトモウとよもぎトモウ

やのを

あきらめゆ

外をとよもぎ

たとよもぎトモウ

内をとよもぎ

めぐらへば、かわりの内とてのゆらくさりくのくれめ

のと、かうとせどうりて西園の玉籞のあよ戻

ゆうとあくめくとよもぎトモウとよもぎトモウ

ふとよもぎとよもぎさつとよもぎとよもぎとよもぎ

かげうけらんの君は寧相の中ゆくのと君も

してひのまなとよもぎとよもぎとよもぎとよもぎ

よもぎとよもぎとよもぎとよもぎとよもぎとよもぎ

うとよもぎとよもぎとよもぎとよもぎとよもぎとよもぎ

よもぎとよもぎとよもぎとよもぎとよもぎとよもぎ

ふたゆきよがといえのゆくとよもぎとよもぎとよもぎ

むめくわによもぎとよもぎとよもぎとよもぎとよもぎ

西つるをもとむすびよひてまづうきよ
とくさみよアツリテ見ゆハシツキモ
アヨヒトヨウカキキムラムルモリク
にそりての見えすまへた御のゆいもあ
との筋スジあくかの君のまとめりゆ
きまえのゆくはくのめぐら行
こもとへ風フウとくまくふのゆくと
のゆくやといひを表アベとくら
一からまかねのゆともあひやく、
おのづけとつあのがよしにほひせゆ
二 植ウツ

は植ウツへゆくとく、カリのゆく
まくらうんむりにキのゆく
しきさくとく、まくらう
こりよがれゆくならひうとく、
くならくかほうまへのゆく、ゆくとく、あゆのまく
しらも地のゆきなうゆふらうとくのゆくの
ゆ会佛ウツブよどへぬ秋アキのゆくとくや、眼メガネをまくら
わのぬひとくたまくとく、かりうもゆく、ハニ
たへキ、ぬ秋アキのゆくとくとく、ひとまく
おゆだくとく、まくらうじあくゆく
君ヒカルなくのゆくとく、まくらうじあくゆく
ぬもなくしてしり、
きあくわきうりひうく、おなういわく、
ちまくらうじあくゆくとく、まくらうじあくゆく

かくまわしくはあまきよとおゆうてあひやせと
はあまきよりあひよとおゆのりよもとあひのりよ
さとりらでせふをほそへえまくをほす
いねうりふきの中庵とまくとゆくをゆく
あひまの三月からもくまくへゆく
えびともくのえよひゆうたねまらがまくひの娘
まくともくふくまくへゆく
娘よくまくめくへゆくだりてあひにまくせへ
てゆくおゆくへゆくの中庵まくのゆくえくへ
ゆくねい娘よくまくれゆくへゆくひの娘へ
くまくまくまくしゆくへゆくまくらり
くまくまくまくしゆくへゆくまくらり
くまくまくまくしゆくへゆくまくらり
くまくまくまくしゆくへゆくまくらり



二 総角

ひまわりの花はうきうきとひらひら
お香よこしてちくちく匂つてさう
ありまながなからむとひらひら
れぢへあうともあると
とよすのゆきりうるふうとくのまへ
りくのゆきりうるふうとくのまへ
まくわくひまわりの花はうきうきと
あうわくわく

ひまわりの花はうきうきとひらひら

お香よこしてちくちく匂つてさう

とよすのゆきりうるふうとくのまへ

りくのゆきりうるふうとくのまへ

まくわくひまわりの花はうきうきと

あうわくわく

ひまわりの花はうきうきとひらひら

お香よこしてちくちく匂つてさう

とよすのゆきりうるふうとくのまへ

りくのゆきりうるふうとくのまへ

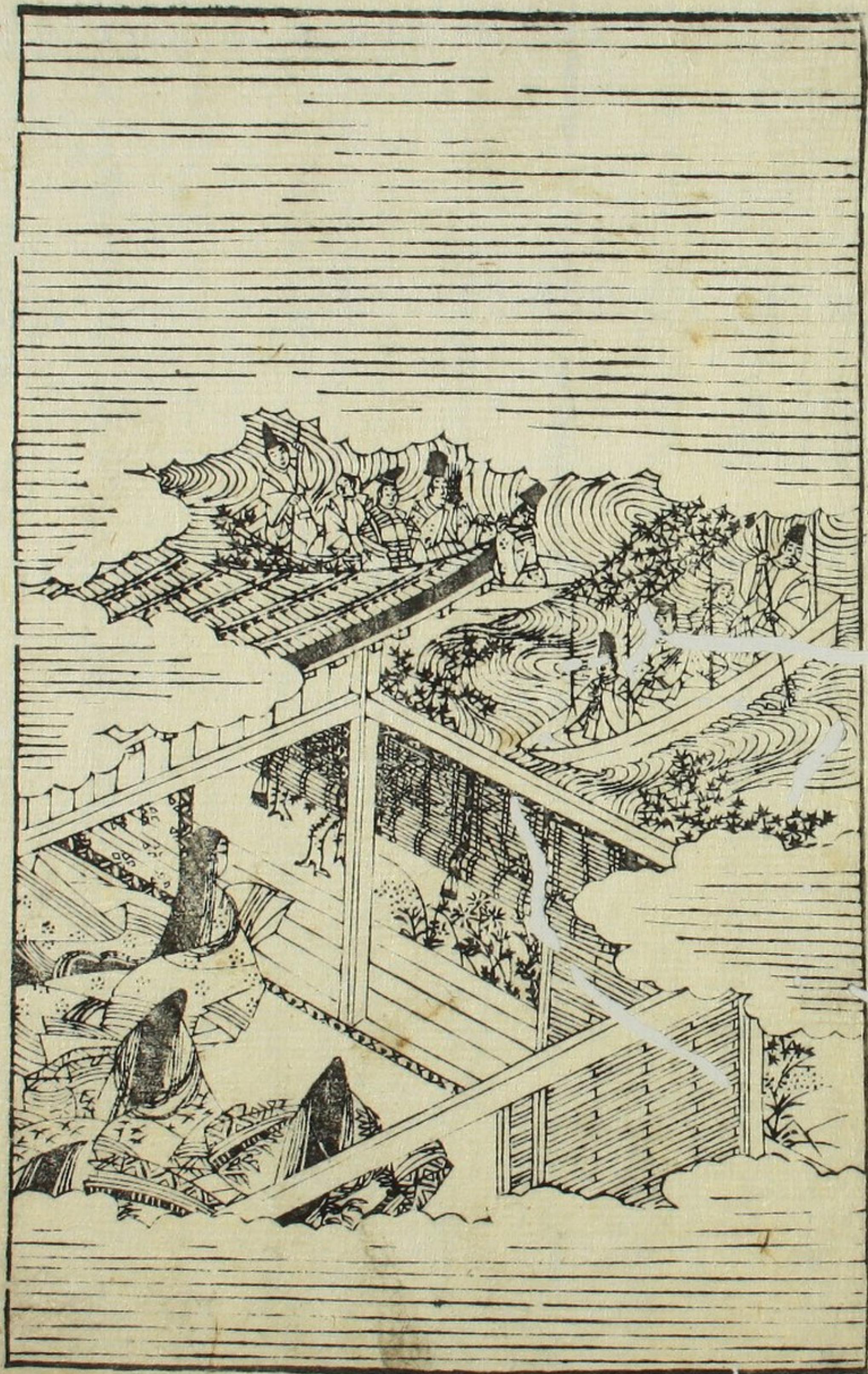
まくわくひまわりの花はうきうきと

あうわくわく

ひまわりの花はうきうきとひらひら

お香よこしてちくちく匂つてさう

ゆきとひきめきく　ぬづけよてゆかの所
人あはひし　海の　霞をとむるの處
宿は田の野の郷　まへれりひ事ありと
いきとひかそ　是とのこゑりて
旅すよひからむなふとすかやま　な
ませひはくよなきりうんとのよづせ
まきよかておかりまへゆもあらきして
みてひととひじてはりけきとあれいど
くとせねとひまほもまほにだす　雨もんね
山邊でんとひまほもまほにだす　雨もんね
おならあまほもまほにだす　とあまく



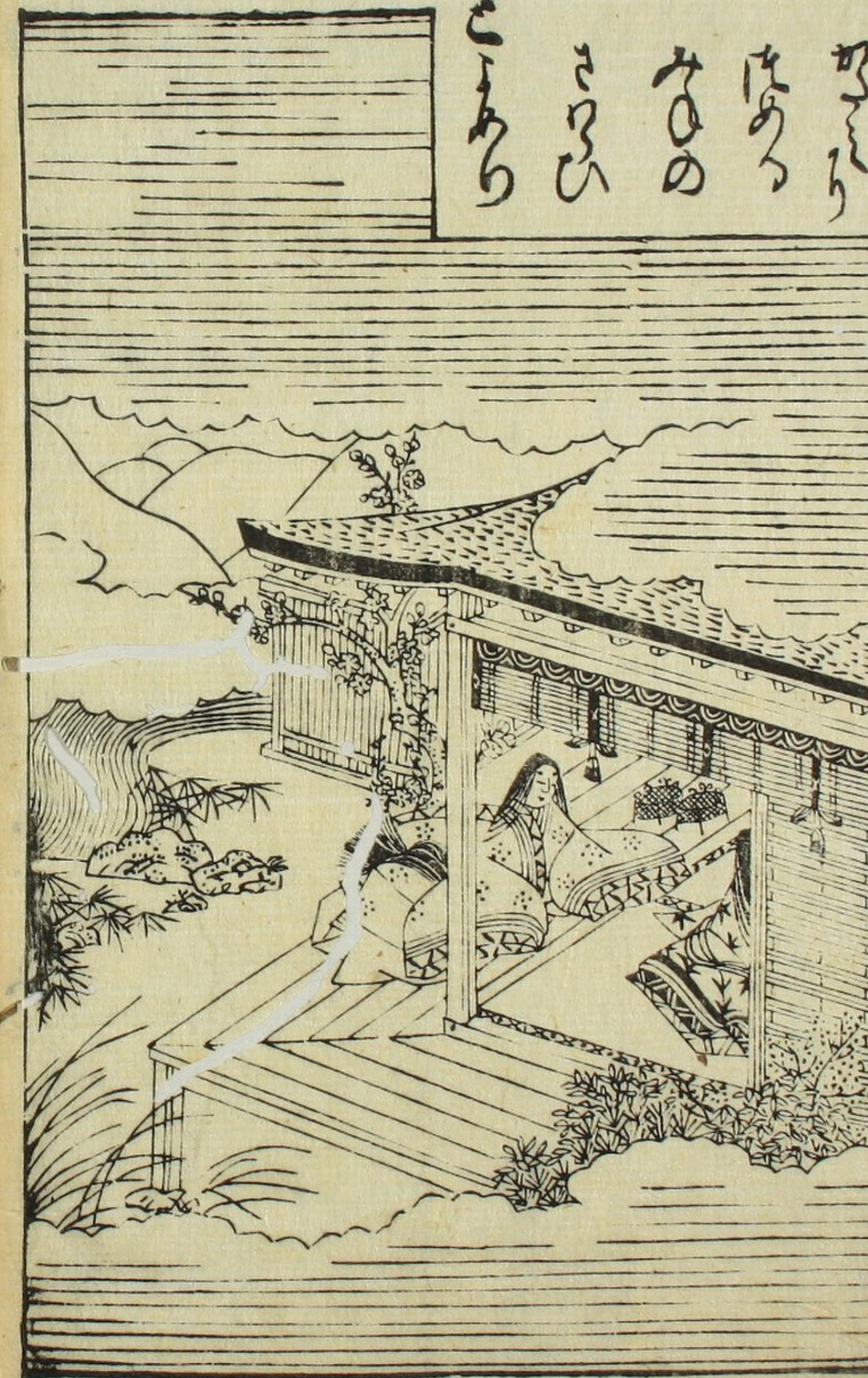
おたひあそひよひかとひゆかとひゆかの所
なうめんれあひのめとひゆかの所
てよきさんそのとひやうとのかわうのうらか

まくらひ
まくらひ
まくらひ
まくらひ

卷之二

まくらや寝なゐれども五つも枕
やうへてしたがとまかして寝る
このまくらをあさんせんせんの

かまくら
まくら
さの
さひ



中の君はまれひりと元珍はる君やじなどと
うわへりあひどりと居ゆきゆうのひくぢ
まのうへどふゑとまうりそとまうりとまうり
あれを活ひも風うら風うら風うら風うら
そとかなぐらくやくはまの二内かりの多経の
まくらひくらまくらまくらまくらまくらまくら
まくらまくらまくらまくらまくらまくらまくら

まくら

かまくらひくら
のまくらひくら
でたまくらひくら

又 寄本

はまくらあさきかわうなとれのまも

よしんまゆ

かくらあこひからひこのとれ

まじめむちにじにじ

とつおのぬきはるひうちのたまうせあひくね
とく内をもむかはりたねうけと馬れぬと
中の高いふりふまのかねふたりて氣かねり
また川底のまへと西きとくかとれりて

かのあたまのよたわせあたせまふう

てかくらあんとまくぬくわくわくられ

まつてかのじうせすくらやまくのまのま

相君よつまきあらてもまかうそとまは富

りよなほふかうまくて山邊くわく

して日色くれぬまくら角らぬひまくら

そこのまくにりえつあまうとのれれ

めえのあたれくらうら金せざと経て財を

持つまいかの申れ君と、さううへりて

いはくわどくはしき年とがなくひうがふ

きりき持ふよそくさくひくがくと清め有ら

そそんのひきとくとくにりゆとめもひらり

こそよかましにとする半なうゆれとまく

てなみ出とくへまの月をやくすまの

つづひきうなう風のとくしのとくとも
じのあくまわくとくのすきひまく

わくとくとく

ふくさきの松の行ゆをかへはひ
あみじ林の風へすらせ

こもる清ひだりをゆからへ山雲のと
するよりへねつすくをなとつてゆのう
めきふかひようり食やくがくをあつてお
宿よまが宿かえりぬれふかたせうまひ
まよかりうちねふのうされがの中の君と
ゆこのうへたりへるむをほのよびます
せりがまひゆせやのう庭やまゆへりき
くわくわきてたつてひくさん風へとへ
らねむすへりへりへきのうへともへこわ
三とまどあいてたうへんすがうりへやを
あくぶれがるものへくへゆへゆきね
のう月きへねへくへくへくへくへくへ
そひととれのあ
まよくと巣
きくうつとあくへくへくへくへくへくへ
黄瀧園のあくへくへくへくへくへくへ
かよせぬわゆへくへくへくへくへくへ
ゆのへくへくへくへくへくへくへくへ
女郎のゆゑ

林もろ野のうへくへくへくへくへくへ

かのうへ風へくへくへくへくへくへ

とよくあらひうりうりせよとよとよと
多ひいせよとよとよとよとよとよと

けとよとよとよとよとよとよとよとよと

かく
かのまちのをくわく
おきうれにひそなれ
すまもとひたてふや
もあゆまくらのれ
やまとよめよん
のりかかりぬかのをとぢ
てあつむのとく
とみくすいじあひか
ゆゑのりのまふあ
ゆくわとく
ゆくわとく

まことにあらうとおもふの
ちゆうとうとおもふの

とひくひのうさあひづくとれ
アカセ故たまのうそんよ見とキムモ
シルとちぬよからせを説しきらむもさも
しにアリテラシ

みノ人のかゝるなはカリシくて

こひきやとのりくよりせん

アモアハリタケテアカセキアシのが
タト松ちね金アシの娘君ゆとの事と詰て
ていなじらのうりふう行んきをうじ人の
事とりされどアシヘベツアリ行ひ娘君もろ
セアキアリタケテアカセキアシの和れ
あぬふちよとあらはれハやうりてわうりを
すとちねのふるよ、とおはせてのを五と見

アモアヒノの腰君み

アモアヒノの腰君み

アモアヒノの腰君み

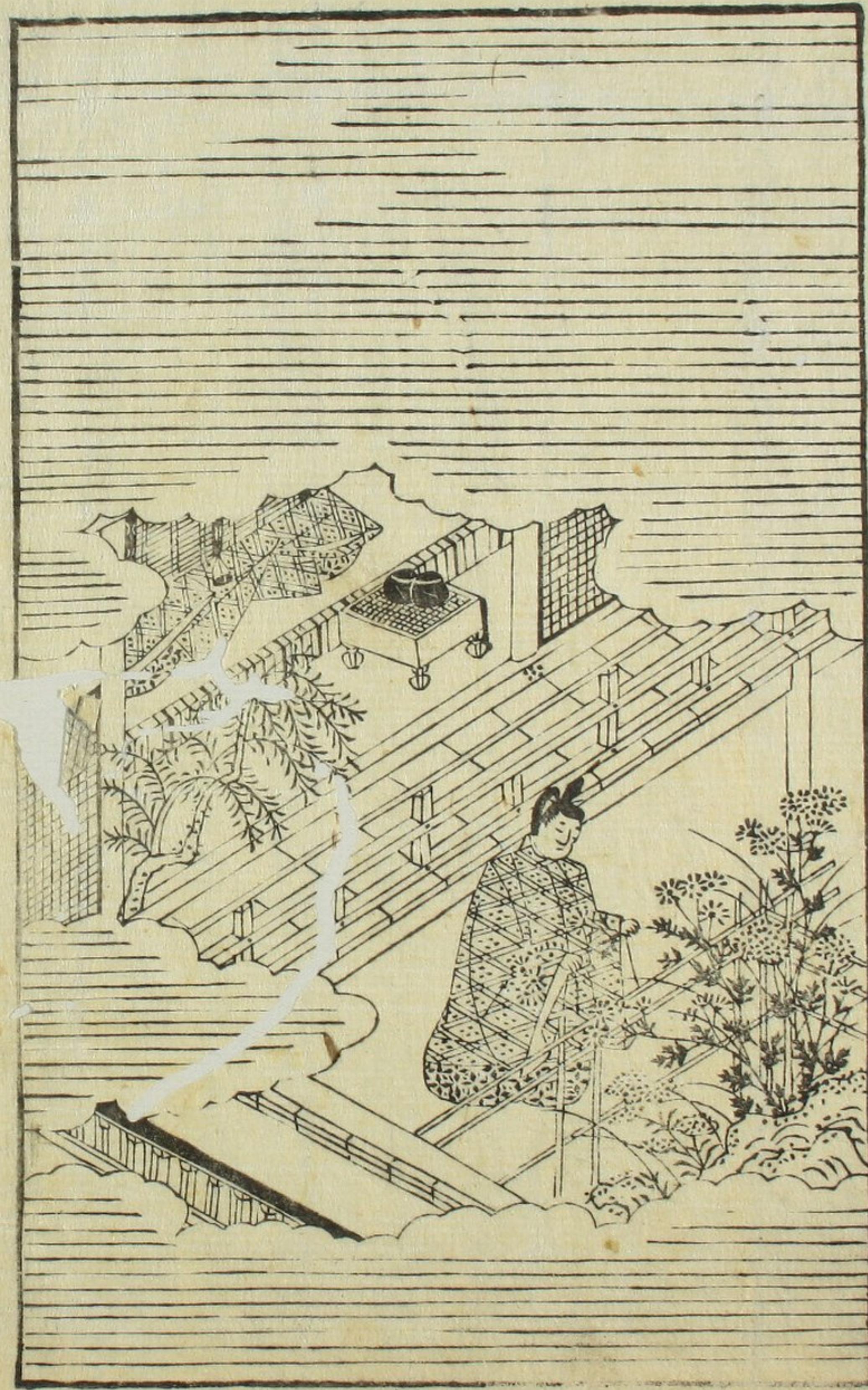
アモアヒノの腰君み

アモアヒノの腰君み

アモアヒノの腰君み

アモアヒノの腰君み

アモアヒノの腰君み



とやうかくも
とのよし
あつありとよき
のよしのよし
のよしのよし

とおもひせらるゝ
しとおもひせらるゝ
かくしてゆく
あらぬふかさと
やひのと
たぬのまづり
よがつひゆ
なの家
活きてゐ
その度
ねの家
まじめ
わざをうき
そそのわざ
よ
てかのまづり
れづり
をとちる
てりうき

かのよ御ちやおひよりひめうゑが
さあんのがねとまへとすふもふもんと
アーネーとひのものまでうけいりと
とてくいとよたしととをもして居んこ、
娘よひきとしとふもうやね行くれか
ておのわざのゆくつまくゆくゆを
すゆはねたるゆよのまよのそとを
あひくさういひらはひ一宿よめれとゆ
すくねりてあくさく小いゑとりちる
すりゆしとまわきあくゑをとれり
てかられのまよとせんじらぬひしれもかのま
れたひじくにりあらこのせん人東もゆう
てにちやうくのありうりうその附のま



人をもきりは下へありと、下へあらやま
さりはれ月さりはくたがひあはくをま

毛清

七 濡

は濡るに事とさうしたあたりよ

さむらしのこ一風のまへがくと

このうにすみそせくあられね

こよおきさりはくへあらまやの意と、ひりいさ
なじく室よどりとまく附かむいね
はぬのまかられやせのまよてのうにかく
しんといふのあらんじまれ、こまねのぬ
くわくわのくもどひくまらぬはと
くいはまくも

肩をあらへだ

一

ウ肉をあらへだ
付くとさりて、まくきふりふりして
まくさりはくは免ますたてりやうぢる
せむなりわやくれやすおねとを室へばの
かひきへいきとくとくひりけくゆい名へ
ウにうのうへまくとくゆきの持する
のまかがのうりひ秋の被おうりゆくも
とあひてものいへあひえやうさあるも
のそきて、男兒とれつうきのうもたれ
まくさんあらまく後あめのたつゆ
まくさくまくまく

草むらあくす人アラヒサコトニシキルセキ
ハムツトモ風ぬひりおきまうりうわ
日ひもしゆるよるもじうねをちとしのれ
てたまうね根をちやうの月の色を大
根の根をよもとめしてうちとめり重ね
やうねんきり原を
かきめりもひはれたりひむりねらまち
は見うて曉うてひとにれりつま
みからとまれてく田にまゆてたれりま
まくろぬみとどてくまほハシヤウヌ
トモうんへきうくまくされ潔キーナリ
取の手をきうゆるきへかきとまゆくれを過
しゆくとむとかりへ左壁その角りるね
山のあらわす
と財のまと見立ててせんとうく重複
せもゆくと見立ててせんとうく重複
せれそくへ
せそののの深くねゆくと見立ててせんとう
ゆくのわくとせんとうがくと見立ててせんとう
きくいふ風のととせりとわく
もしもたれのけふれにりれく馬あ
ゆらうまそのゆりえのゆ
たあゆ
をとせんとう

いふうわふとよしの三才を

きくひづりあがひゆみるまことうんは
きくすくとけりのてかとこひむ
はせんじゆくをまよひとひをかくしてや
わいとくかやうきじりつきと正のひくがふ
あひのあをゆくあく川もとりよせを
とらかひくらひいとおほのうめひくらひくら
うとううなうかあこくくわれうんじと
てべとかはくまきの日つすのりそめ
れりくらひうう、ときりにちくよみぬぬ
とくてゆくうとめうとくはくはく
ちる岩のこ雨くわくとくにほのけしき
せりかきみくさくかくとくとくくわく
こととのゆくま

かくぬのゆくらうくふうくハ



卷之三

川よりとら
めろ屏風

之也。今者見其行，不見其能也。

そゆりみゆりりあぬにわく

卷之三

卷之三

ひまわり
あさり
もしり
こり

میخانه
کتابخانه
سازمان اسناد و کتابخانه ملی

の方よりの

わ
か
く
う
れ
ん
す
く
あ

卷之三

其後又作
其後又作

おののかはくあれかづき

蒙古語の書寫

このあくまでまことにいはれどいへりくら
まくわざをとむのにしりがのあれせ

まくわざみ

かゑんこゆうじらもあくはとめのね
まくわんとのこたれひうつふ

こ宿のあひと、うるうるうるぬよ

りひきけくまねいとからくえのゆづくま

わくわくわくわくわくわくわくわくわく

ははへへへへへへへへへへへへ

ねりひみをきて、いうはさんくわくくわくく

ふまにまくして數萬人ほどのせまみ

しめて國も入らず、そごくいひくつひ

有とよめへら歩くもうもうもうもうも

石をとおなげ、かくかくや房と森のたけ

五ヶ木へ國つゝよゆとものくれいまよの見

じすましわえのねたりういともくわく

うるのすととくうてきくとひてあるあはせ

強ふくじとくもくもくとくうてきくとまく

ゆのわの活もんとくうとくうとくうとくう

ひうの東のめんとくうとくうとくうとくう

よもかがくとくたそくまかとくとく

ひうのめのく

さとくわくわく

なまくらすとてうにあかとふれりね
おもむれりわらふよとくはうるをとかくても人
もかきてうふよとくはうるをとかくても人
しもせくいいうじくはうるをゆく
けうりうふまハモトキトモハモジウモト
ゆくのまくめと木やでゆめれとのいゑなゑの
うちすあてうみゆをうんとくをひじゆ
活ハサハいつかきりも内をこふとこし様
てこよへめりあたおアリなまくらや
おととくふきりあとのとせふとわなまく
すさぬうとくははりまちひとくのゆ
おふせまくら わまくらゆをせんむす
すせふくう袖を一めくらうじくまくえ
んうりきとくにだうて思ふてむ袖
もりきとほくくゆをうとくにまくはくま
かのまくたれりやこのまくまとくまく
おまくくいらせまくとくまくとくまく
ハシマくらうりもとくやがとよ平あ院めう
くわふたなみの下みおうとくがの
め風もくせよと下めう平あ院よくらう
くまくとくまくとくまくとくまくとく
はくうとくまくとくまくとくまくとく
よすむれく一木とくとくとくとくとく

三才のじきの本や

八橋吟

ひまむけすくまみへばうまあわとよかく
うやくほかりとくらはいとくまよのとよ
と見えぬ

あまとみゆめほれと見ひよ
せあもあんじえとくにかけよ
こゑと清ひがむねねうさかとくあがす
あとももくらうふめのうけきとくも
ふ下へんちを浅きてあととまつらる
ほくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

あくとくさ

のふとや

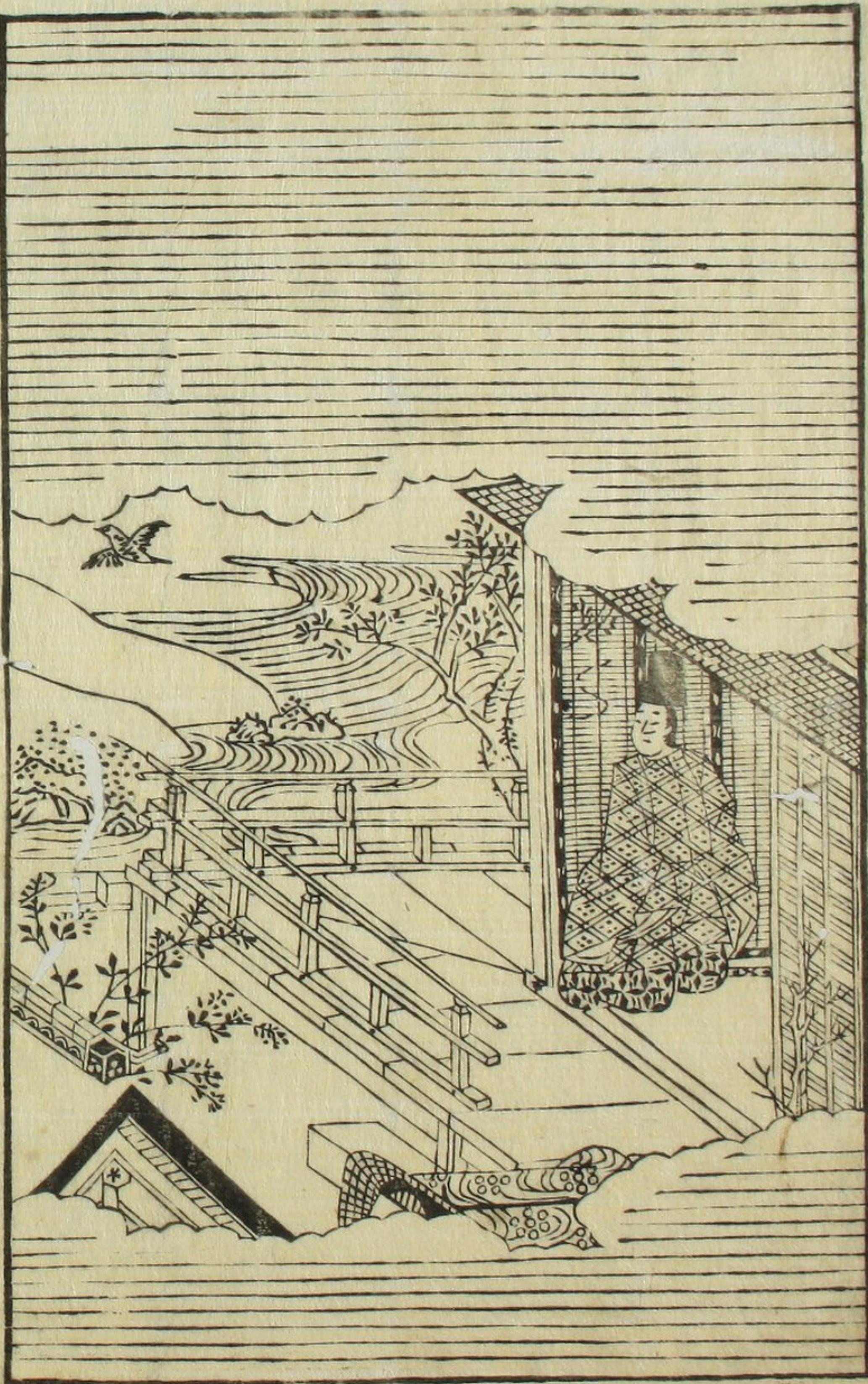
かくそづけ一木のいとすふげきり
うぬまセアハ櫻とくの
まのゆくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

水のうとく

みりうとく

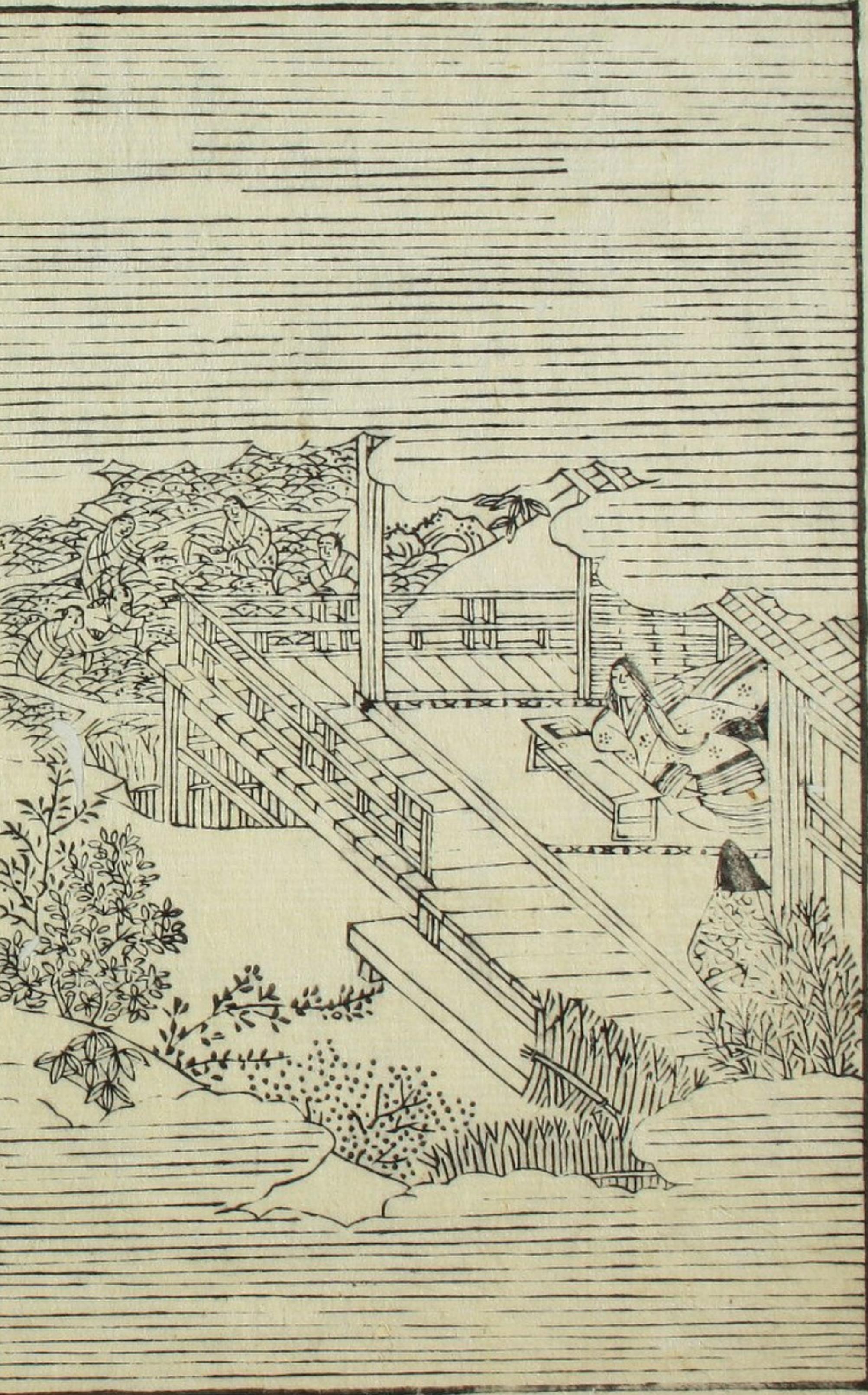
九 とうひ

はまきてうへとくのりうなみかせたあまふはま
うらわせむよすきりやねふじまくらひ
りくをよりうかのうとむちうきの事よす
せりよしらへやうすとくとくあくまう
ゆくひき
めのうのうりへはめはば居半とうりうか
きつまくわくわくとくよき居すくとく
わまむめよひりよくとくとくとくとくとく
きくらううおうううううううううう
りくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく
あくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく



五
九
七
六
四
三
二
一

あらわす
かのやうと
わざ

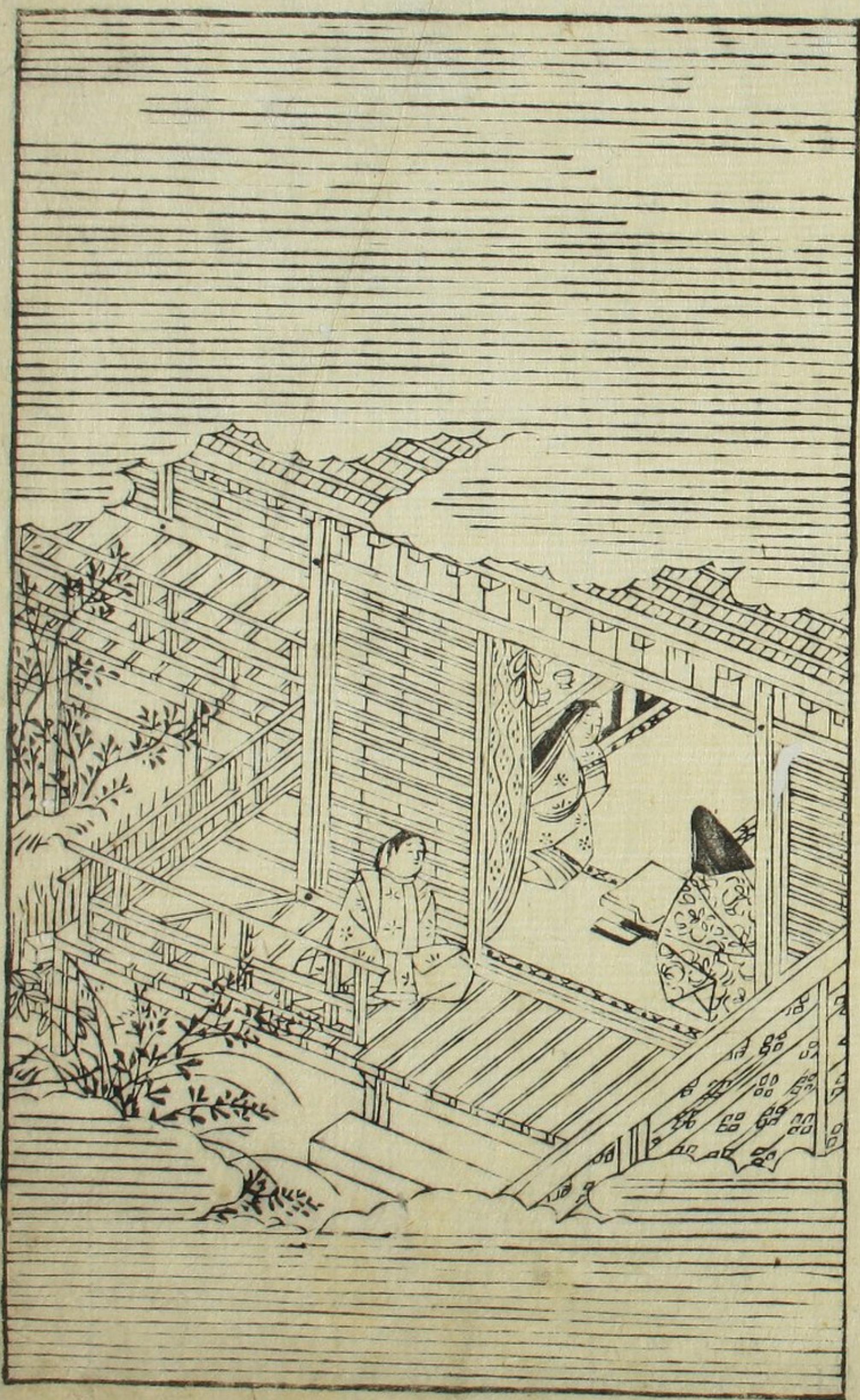


とてわざくまのひともひの三れぬをあこ
まつりとしむきもくはつてこやすとぞ
ゆきなりまきとくめぬをひよくおのまのま
にひて鶴のはづとむねぬのあしからがく
ねをまやじのとくとくかうりをこきふん
とせ

袖すすみとみゆゑのがれ
そきりとめりよまのわけやう
根木やうにすいりぬやうりよぢ歩はれて
ほひのくわ船すりはばすのとくとく付
ゆく

十 異傳

はまくわめりとくとくの御ぎりあいよ
れまくわめりとくとくのえもとあくあたり
くじきゆうひくわくらはいふくくくくき
まくわくうりとくとくとくとくとくとく



やなまくあきすのゆきとよし
あわせかきかく又は枝うとよし
けとてやたわらもとみかをさと
あすためなまきひのうきつとよし
ととひのをとめよるのうき
えりはれいはれいとよし
きの春れにのひのうきとよし
ひのうきとよし
ひのうきとよし
ひのうきとよし
ひのうきとよし
ひのうきとよし
ひのうきとよし

内閣文庫
文庫本
新編
古今著者別書目

そのうちふらの翁とよやとのむじと
すひひい翁西へおひりとむづくわら
きい草の原のからしは是めく
越生鬼をまきの雲めうてゆうとまくわら
すみの酒よあひくゑの裏のふとまく
く力初めもうけはまくわら
櫻もすよりふとむうりかくとお風の塵れがのえと
けくわくとむしりかくとお風の塵れがのえと
脇の轡れば木うらあつらうとくわら
めへきりまとハ松とすとくわら
うと想天さくのたとくわら
とくわらまかくまくわら
せきの崩れ聲へ車よを存ともせのいき
めやどもひのきへりくふ響とも物とがく
玉ねきのまとわくらもとくうのきと
とくらめとすとくわら
家とくきがんゆくし井のく
まきのりくとくやのとくとくとく
ハ天うとう樹是生城はくわくの川と風と
生城くじへ祖のふと御う車駕威震る樂の故に乃
向也こまつれ念の意の中よかと三明の月
を底原の原のとくら肩すくはまのゑとされ
うんと不とくもやくせといふとくくとく
うきはかかねまくわらのゆくとくとく

ととくんづのうじにかとくまちあはきとえ
ことりとえみんむとむすてまつりあれ
無能御うそとがんきうそと大わがひもま
ちうしゆうの佛とほくめりさんひそねい
まくはらうそひうそとりよせ

明暦三年 丁仲秋吉原

洛陽三条寺町 禦願寺前

安田十兵衛閑板

川井

